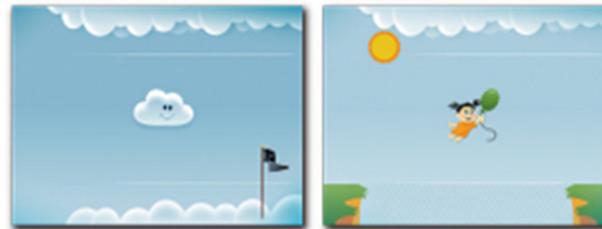


苦しくない，やさしい肺の検査

当院では，呼気（吐いた息）に含まれる一酸化窒素（NO）の濃度を測定し，気道のアレルギー炎症状態を評価する新しい機器を導入しました．気道に炎症が起きると（気道の粘膜を構成する）上皮で誘導型一酸化窒素合成酵素（iNOS）というNOを作る酵素が増えます．そのため吐いた息のNO濃度を測ることで，結果的に炎症の程度がわかることができます．それにより，長引く咳が喘息かどうか？など，呼気NO濃度と臨床病状を合わせて判断することができます．



測定値は，数字として出ますが，それだけで確実に診断を下せるといったものではありません．あくまでも判断材料の一つ，診断の一助としての位置づけです．

検査はいたって簡単，上図のように器械の画面に映し出される「雲」または「風船」のアニメーションにあわせて，約10秒間（または6秒間）息を吐き続けるだけです．通常の肺機能検査がうまくできないお子様やお年寄りも簡単に実施できます．